

「小笠原諸島」（日本）に対する IUCN 評価－追加情報の要請（仮訳）

2010 年 9 月 14 日

山本大使殿

2010 年 7 月 1 日から 16 日までピーター・シェイディ氏とナオミ・ドーク博士により実施された、小笠原諸島への IUCN 世界遺産技術評価ミッションに関してご連絡いたします。ミッションに対して示された、あらゆるレベルの行政および父島、母島の住民によるすばらしい支援と協力に、IUCN 評価者は両名とも深く感謝しています。この機会に評価者と共に私からも、ミッションの準備に関わったすべての関係者に IUCN の心からの感謝を伝えたいと思います。

さて、前回の連絡でも述べましたように、IUCN は評価プロセスの間、締約国と対話を保つことによって、すべての必要な情報が確実に提供され、疑問点があればそれが解決されることを望んでいます。従いまして、以下の点についてさらに説明をいただきたいと思っています。

#### 1. 推薦地の範囲の海域部分

ミッションでは 7,408ha の推薦地は主に陸域であると認識しました。推薦地の約 14% が海洋環境で、それは自然公園法で定める海域公園地区あるいは文化財保護法による天然記念物です。しかし海域公園地区は推薦地に含まれているものもあれば、除外されているものもあります。科学と価値に基づく推薦地の境界線の理由付けには同意します。しかし、より多くの海域を推薦地に含むことができれば、管理の有効性、ひいては推薦地の完全性がより良くなると評価者は感じました。小笠原諸島のような海洋島生態系の機能は、陸域と海域の環境間の動的な相互作用の結果もたらされるものです。従って、既存の海域公園地区すべてを含むように境界線を拡張する可能性について、締約国の意見を聞かせていただければ感謝いたします。技術的視点からは、そのような拡張は完全性に良い影響を与え、より効果的な管理を促進する可能性があるものと考えられます。

#### 2. バッファージーン

推薦の前に、小笠原国立公園の境界線をほとんどの列島について海岸線から 5km に拡張した締約国の決断を、評価者は称賛しています。しかし推薦地は公式なバッファージーンなしで推薦されました。実際には、推薦地はより大きな小笠原国立公園内の核心地域に該当し、作業指針の意味するところに合致した効果的なバッファージーンに実質的に囲まれていると評価者は考えます。ですから推薦地とより広域の国立公園との関係について、さらに説明が必要です。推薦地を囲んでいる国立公園の指定が推薦地に対して、作業指針で定めるところのバッファージーンの機能を実質的に果たしていることを、締約国が確認（承認）していただければ幸いです。

### 3. 侵略的外来種の範囲

小笠原諸島における侵略的外来植物種の範囲を記述するための総合的地図化作業が進行中であるとミッションにおいて伺いました。特にモクマオウ、アカギ、ランタナ、リュウキュウマツなどの主要な侵略種について、この蔓延状況に関する情報が示されれば、評価により役立つと考えられます。これらの地図が完成したら、そのコピーを提出いただければ幸いです。

追加情報提出の公式な締め切り日は 2011 年 2 月 28 日です。しかしもし可能であれば、2010 年 11 月 29 日に開始される IUCN 世界遺産パネルの前に情報を提供いただければ、その機会に追加情報を検討することができますので、感謝いたします。

この追加情報の要請に関して質問があれば、世界遺産プロジェクト管理官ティルマン・イエーガーに遠慮なく連絡してください。

世界遺産条約に対する貴殿の支援、そして IUCN ミッション実施に対する支援について、再度感謝いたします。上記の点について、回答の取り付けへのご協力をよろしくお願いいたします。

敬具

世界遺産プログラム長  
ティム・バッドマン